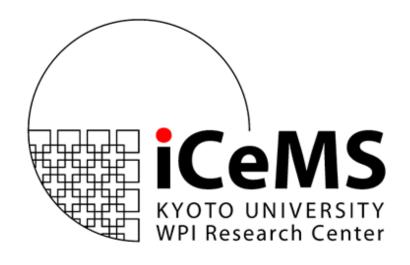
# Kakenhi tips for young researchers

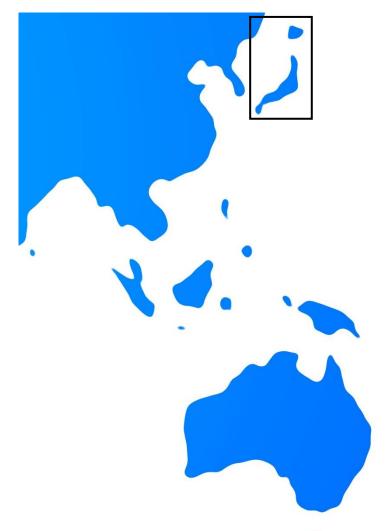
### **Daniel Packwood**

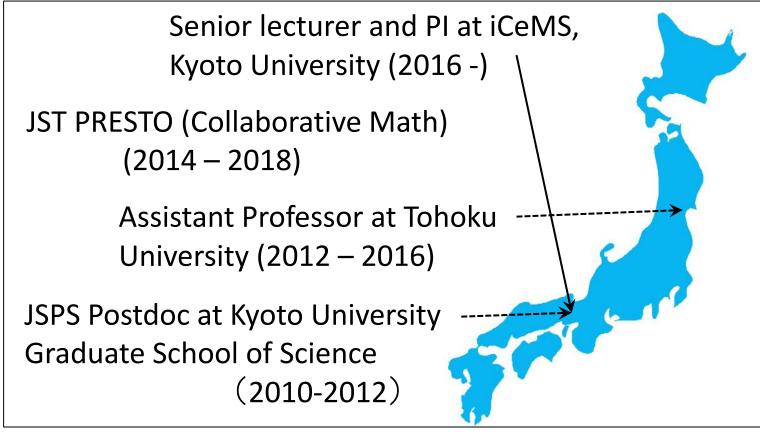
dpackwood@icems.kyoto-u.ac.jp





# Self-introduction







University of Canterbury (PhD 2010)

Major: Chemistry, Minor: Statistics

# Why obtain research grants?









As well as paying for your research costs, research grants show that

- you have a sound long-term research plan,
- that people believe your research will yield exciting outcomes, and
- that you have the support of the domestic community.

It is very hard to demonstrate these things from your publication record alone.

# Kakenhi is the main source of public research funding in Japan

Main categories: Target age:

Kiban S 50 onwards

Kiban A Mid 40's onwards

Kiban B Late 30's – late 40's

Kiban C Mid 30's – early 40's

Wakate (Young Scientists) Late 20's – late 30's

(+ other special categories)

As you go through your career, you work your way up from Wakate to Kiban S.

## My rocky Kakenhi history...

### Occasional hits!

2014: Young researchers B (Wakate B)

Charge transport inside of organic crystals

2016: Shingakujyutsu Koubo

Nanostructure control with Bayesian

optimisation

2018: Young researchers (Wakate)

Thin-film deposition system combining experiment and information science

:

### **Occasional misses!**

2017: Young researcher A (Wakate A)

Computational platform for work function

control

2018: Shingakujyutsu Koubo

Determination of nanopore atomic structure

via a math-materials collaboration

2019: Kiban B

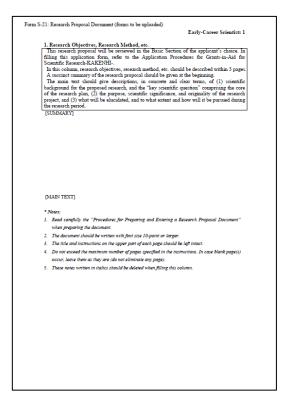
Molecular assembly control by fusion of computation and machine learning

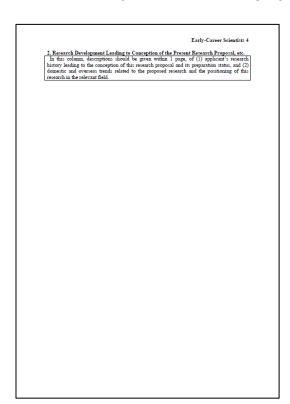
•

All established researchers will have a long list of acceptance and rejections. If you miss once, just re-think your strategy and try again.

# What do you need to write?

Wakate application form: https://www.jsps.go.jp/english/e-grants/data/r02/s-21\_e.doc





### 3. Applicant's Ability to Conduct the Research and the Research Environmen environments including research facilities and equipment, research materials, etc. relevant to e conduct of the proposed research should be given within 2 pages to show the feasibilit of the research plan by the applicant (Principal Investigator) If the applicant has taken leave of absence from research activity for some period (e.g. due t naternity and/or child-care), he/she may choose to write about it in "(1) applicant's hitherto 1. The description in this column is to explain the feasibility of the research plan. On citing research achievements (research papers, books, patents, invited talks, etc.) they should be given not as an exhaustive list but as supporting evidence to prove the applicant's ability to conduct 2. Sufficient information should be given so that the reviewers can identify the research In the case of a research paper, for example, the relevant bibliographic information, including the title of the paper, the author(s), the title and the volume of the journal, the publication year, and the pages of the article should be given 3. The research papers that can be cited are only those already published or accepted for publication 4. These notes written in italics should be deleted when filling this column

## 4. Issues Relevant to Human Right Protection and Legal Compliance In case the proposed research involves such issues that require obtaining consent and/or poperation of the third party, consideration in handling of personal information, or action related bioethics and/or biosafety (including the laws and regulations and the guidelines in the ountry/region(s) where the joint international research is to be conducted), the planned easures and actions for these issues should be stated within 1 page This applies to research activities that would require approval by an internal or externa ethical jury, such as research involving questionnaire surveys, interviews and/or behavior surveys (including personal histories and images) including personal information, handling of If the proposed research does not fall under such categories, enter "N/A (not applicable)

### **Proposal:**

Summary, goal, methods (3 pages)

### **Background:**

How did you choose this project? (1 page)

### Feasibility:

Past achievements and current research environment (2 pages)

### **Compliance:**

Human rights protections, etc (1 page)

# Elephant in the room....



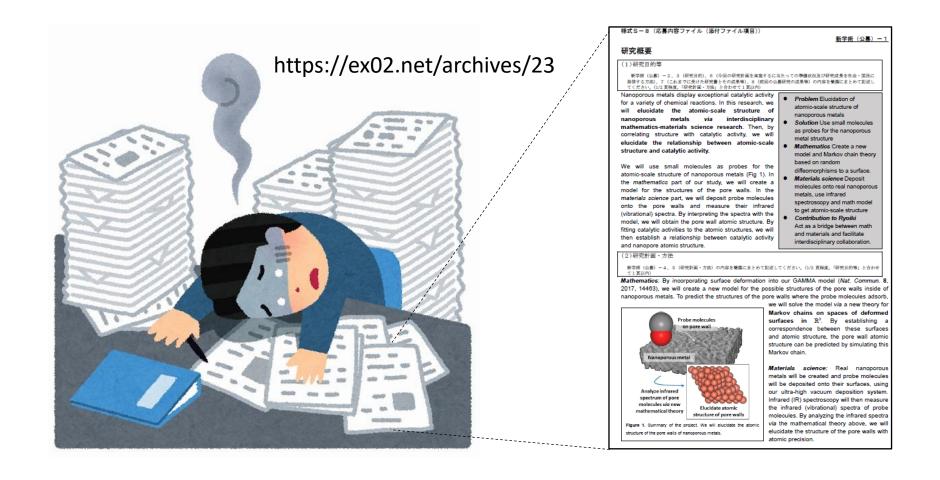
2015	success rate for Japanese proposals	English proposals
Kiban A	23.5 %	13.6 %
Kiban B	24.7 %	11.4 %
Kiban C	29.9 %	23.7 %
Challenging (houga)	25.8 %	10.9 %
Wakate A	22.1 %	9.8 %
Wakate B	29.9 %	20.0 %
	http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/gijyutu/gijyutu4/037/sh	niryo/icsFiles/afieldfile/2015/06/17/1358876_05.pdf

# A contributing factor: Casual discussions involving foreign scientists are limited



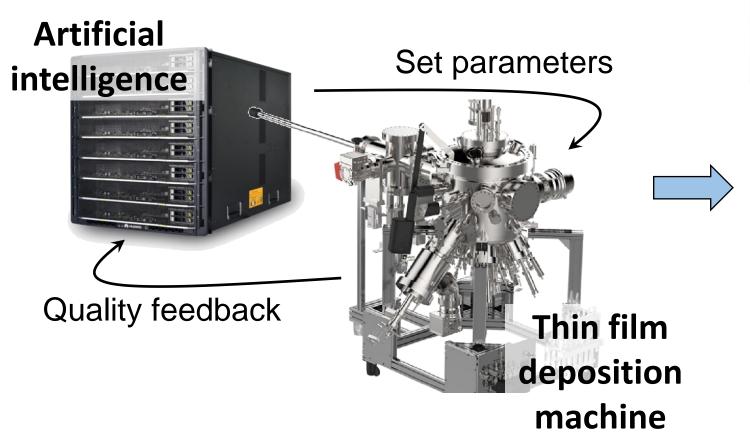
So what are these tips?

## Tip # 1: Remember that the evaluators are really busy!



Make your proposal interesting and easy-to-understand for the evaluator.

# Tip # 2: On the first page, articulate your vision and sell it



Project outcome (should be interesting to others)









**Organic displays** 

Long term outcome (should be relevant to others)

### **Application form (first page)**

#### 1 研究目的、研究方法など

本研究計画開書は「小区分」の審査区分で審査されます。配述に当たっては、「科学研究費助成事業における審査及び評価 に関する規程」(公募要領111頁参照)を参考にしてください。

本欄には、本研究の目的と方法などについて、3頁以内で記述してください。

冒頭にその概要を簡素にまとめて記述し、本文には、(1)本研究の学術的背景、研究課題の核心をなす学術的「問い」、(2) 本研究の目的および学術的独自性と創造性、(3)本研究で何をどのように、どこまで明らかにしようとするのか、について具体的かつ明確に記述してください。

#### (概要) ※10行程度で記述してください。

海外の大手デバイスメーカーが有機発光ダイオードを活用する中、日本業界は有機エレクトロニクス (=有機EL) を取り入れるようかなりの圧力をかけられている。有機ELは安い・柔らかい・薄い・軽いというメリットがよく掲げられているが、高性能・長期寿命デバイス作成において重要な段階「結晶性の高い有機薄膜を蒸着すること」の難しさが問題視されている。本研究では、実験と機械学習の融合により良好な結晶性が保証される有機薄膜蒸着システムを構築する(主な目標)。具体的には、目に見えない相関を抽出できるベイズ最適化法で薄膜蒸着装置を左右し、高い結晶性を得るための蒸着パラメーター(基板の温度、蒸着速度など)をかつてない速度で絞る。主目標の達成後、薄膜の分子レベル構造の解明(副目標1)・長期寿命有機ELの作り方の発見(副目標2)を目指し、業界への還元を狙う。

#### (本文) \*主な目標 「結晶性最適化システム」の構築 \*

有機ELである有機効果トランジスタ (OFET)、有機発光ダイオード (OLED) などを実用化するには、それを用いた有機薄膜を基板に綺麗に蒸着することが極めて重要である。主なでは、優れた結晶性が保証される有機薄膜蒸着システム(=システム)の構築を目指す(図1)。このシステムは実験と機械学習を融合し、蒸着パラメーター(蒸着速度v、蒸着時間tv、基板の温度T、加熱時間tr、など)と薄膜の電子回折図形の相関を抽出することにより最適な蒸着パラメーターを迅速に絞り、プリンテッドエレクトロニクス・OLEDディスプレーなどの効率的大量生産へさらに進歩する。

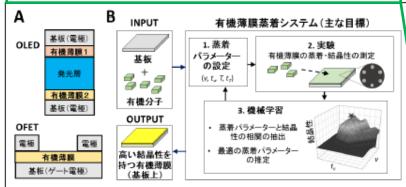
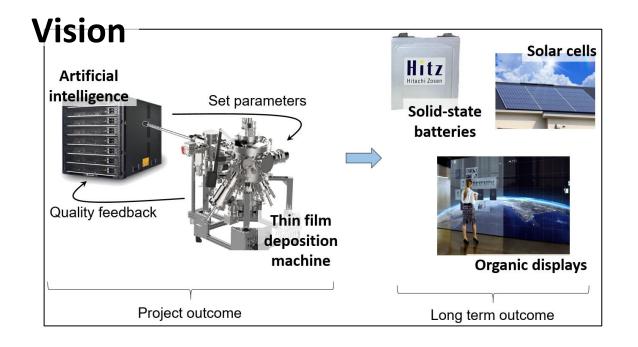


図1(本研究の主な目標) (A) 有機発光ダイオード (OLED) と有機効果トランジスタ (OFET) の簡単な構造。有機薄膜は大文字で強調される (B) 優れた結晶性が保証される有機薄膜蒸着システム (=システム) (主な目標)。2. に書いてある黒い円形は電子回析図形 (=LEEDパータン) を表す。



### (Project outcome)

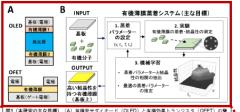
In this project, we will combine experiment with machine learning to create a thin film deposition system that can guarantee high-quality crystallinity.

### (Long-term outcome)

... towards efficient mass production of printed electronics, organic displays, and so on.



(本文) 未立日標 「朝品性最適化システム」の開発+ 特徴ELである有機効果トランジスタ (OFED) 、有機免光ダイオード (OLED) など を実用化するには、それを用いた有機薄膜を基板に微算に蒸着することが極めて重 要である。主なでは、優九た結晶性が保証される有機薄膜蒸着システム(ニシステム)の病 茶を目指す(図り)、このシステムは実験と機体学習を融合し、素養/ワチーダー(基業 速度)、蒸着時間、基板の温度7、加熱時間が、など)と薄膜の電子回折図形の相関を抽出 することより最適な高度/ワメーターを迅速に続り、ブリンテッドエレクトロニクス・ OLEDディスプレーなどの効率の大量生産へきらに進歩する。



単な構造。有機薄蹼は大文字で強調される(B)優れた結晶性が保証される有機薄膜蒸着システム(

システム)(主な目標)。2. に書いてある黒い円形は電子回析図形(=LEEDパータン)を表す

有機 薄膜 蒸着 システム 高い粘高性の 高い粘高性の 有機薄膜 LEED/エータン 窓 (本研究の副目標1) システムで得られた有理薄膜を分テレベルで結晶構造の 分子レベル解明 には、LEED/エータン では、LEED/エータンが入りされた構造解手声を多く。

★**副目標1 薄膜結晶構造を解明すること システムで何を作った?★** 副目標1 では、高く評価された研究成果 GAMMA アポローチ (Packwood *et al.* Nature Communications. 8, 2017, 14463) の一般化を行い、システムに測定される

Nature Communications. 8, 2017, 14463) の一般化を行い、システムに測定される 電子回移図形(-LLEED パータン)に入力される構造解理手法を割生する(図2)。 の手法では、システムはどんな有機**理度を作るかを分チレベルで解**明し、かつ、 分子構造と薄膜結晶構造を繋げるコンセプトを抽出することも可能である。

★副目標2 長期寿命 OLED の作り方の解明 システムによる日本業界への還元★ 薄膜の結晶性は OLED の寿命と強い関係があると考えられる [1]、副目相 2 では、 システムを活用し、実際の OLED に入っている有機薄膜を優れた結晶性で得るた めの蒸棄パラメーターを複雑することにより日本業界への運元を狙う。

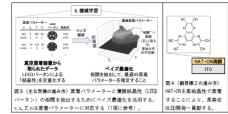
#### \*本研究の学術的背景・独自性\*

日本産業界は、有様 凡 に投資しなければディスプレイ般格事業を長く続けられない[2]。 日本の最大ディスプレイメーカー(株式会社ジャパンディスプレイ)は、iPhone 用の無機 Liのディスプレイの主要の供給をであり、総合料益の54%をpole から受け取っている。し しかし、(ILD ディスプレイが搭載されている iPhoneX の公開で、ジャパンディスプレイの今 後の見急しが幅くなった [3]。日本企業は存後 日、分野で後ろから追い超すには、有様 日、 開発に関わる技術課を解することが解除さなことが解しなり

応用数学・情報科学が流行っている中、有機肛関発に機械学習論を導入することが大変能力 的になってきた。本研究では、高性能、発展等命の有機に開発において犬をな課題「総基経 の高・有機理解を得るための基業パラメーターの特定」を機体等で解決し、従来の関係で 策「演感的経験による試行錯誤」を乗り越えることを狙う。申請者が分かっている範囲では、 機械学器をデバイス開発に導入しようとする研究グループはどこにもいないので、本研究の インパント・機能を保証できる。

#### \*本研究で何をどこまでにするか・研究の進み方\*

主な目標(H38年4月-H31年3月)、研究期内で、半導体表面や金属の単純結晶表面という基板に吸着した低有機分子薄膜(ベンタセンなど)のためのシステムを構築する。



システムの基本インフラを授重するために、東空無着装置とハイパフォーマンス計算機の間 のフィードパックループを設ける。具体的には、薄膜重発器に繋げている低速電子回防機器 (一IEED機器) の出力ボートをハイパフォーマンス計算機に接続して、ハイパフォーマンス 計算機の出力ボートを薄膜蒸着機器に接続する。その後、LEEDから遊信された構造データの 処理・弾展蒸棄機能にマンドの返復を行うソフトウエアを作成し、有効なフィードパック ループを得る、RやC音話により傾成い計算機関と対できるソフトウエアを作成する

機械学習の部分 (図3) について、ベイズ養遺化というアルゴリズムをハイパフォーマンス 計算機に搭載する。ベイス最適化では、真空重要装置から得られたアータをベイズ解析で処 理し、業業パラメーターと結晶性の相関を推定する (Packwood and Hitosugi, Applied Physics Express 10, 2017, 065502, and [4, 5, 6])。ここでは、LEEDパータンにより「結 島性」を定量化することとベイズ養遺化が依存するハイバーパラメータを設定することが必 夢であり、それら理論展開することが関係できる。そして、ベイス最適化を実行することが必 多であり、それら理論展開することが関係できる。そして、ベイス最適化を実行することが必 ために、低年の四は16分子で商料品性の薄板が頻繁に蒸着しているかを提記する。綺麗に業者 されなければ、ベイス養造化のアルゴリズムの課題を消除計する。

副目標1 (H30年4月-H31年12月) 半導体・金属の表面に集着した低有機分子薄膜のための 構造期間手法を研究期内で貯成する。具体的には、与えられたLEEDパータンに対して薄膜の 放行構造を形成して、マルコフ運搬をシテカルのは「〜WMX法)により薄膜構造の平板状態 を計算する。第一原理データにフィットされたエネルギー開放に関するフィッテング法について、 都度の高い予想が可能である。MMX法とエネルギー開放に関するフィッテング法について、 Sub-monolayerを推進算に振られるOMMAアポローチを参考とし、適本な一般がを行う。

**副目標2 (H21年4月-H32年3月)**、研究期内は、indium tin oxide (ITO) 上のHAT-CN機関の ための最適重着でラメーターをシステムで発見する (図4)。ITO上のHAT-CNは実際のGLED 開発でよく利用されている材料なので、長寿命GLED開発において相応しいターケットであ

#### 2 本研究の着想に至った経緯など

本機には、(1)本研究の着想に柔った経緯。(2)関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ、(3)準備状況と実行可能性 について1百以内で到底してください。

#### 1. 本研究の着想に至った経緯

本研究の書類は、申請者のASTさきが片研究(管理モデルセグラフェン会成の制験、128.10 190.3) の次の挑戦として考えられた。有機分子sub-murol syer の分子レベル構造の予測を目 報したさきがけ研究では、関内外の指令を表、指帝起車などで減く評価され、AST CREST制 野領域「実験と理論・計算・データ科学を融合した材料開発の革管」の「非領域が求める場 変」の具体的例となった[7]。本研究の切っ掛けは、さきがけ研究の期内に参加したプログ ラムAST SciFiなである。そのときに有機にの実用化に関する問題についての設備が高すり、 機械学習を薄膜支着過程に導入しよういう発想があった。そして、今年度の栽培目標「実験 とデータ科学等の融合による革新的材料開発手法の構築」を検討したうえ、本研究の主な目 様 「有機構造業・ステム」と副目標「、2を図った。

#### 2. 関する国内外の研究動向と本研究の位置付け

産業的ニーズにも関わらず、高い結晶性を得るための自動システムはまだ免費されていない とみられる。日本業界では、機械学習をデバイス開発過程に導入しようだいう動きがあるが、 具体的販売はまだ表費されていない。日本国内外では、材料科学と機械学習の共同研究がホ ットトッピクになったが、今までの研究はパーチャルスクリーニング (二第一原理計算によ る材料発見)に限定される。以上により、本研究は実際のデバイス開発過程と機械学習の初 めての販売になる意識がある。

#### 3. 準備状況と実行可能

本研究のための研究スペース(京都大学 にある実験室、25m<sup>3</sup>)、ハイパフオーマ・ ン入計算機(144 コアのIntel クラスタ ー)、超真空薄膜黒着装置(Omicrom 験)はすでにある(図57)。しかし、 験製業機機器に設置されている素着源が融 点の高い張機の材料のためのもので、有 機分子を分解してしまう傾向がある。新 しい業着源、消耗品費(進者物)や旅費 のために中に確定を提出する。

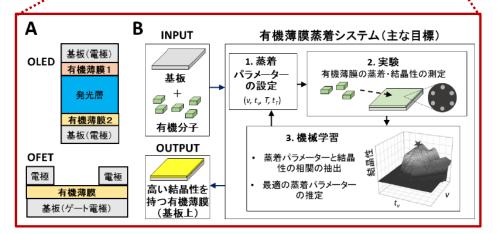


JST SciFQS期内でDNP大日本印刷株式会社や株式会社日本触媒などの知り合いができ、研究 成果を日本業界へフェードバックするためのメカニズムがある。

#### 参考リスト

Pakagawa et al. Appl. Phys. Express. 7, 2014, 082104
 T. Amano, Bloomberg Technology (October 17 2016)
 M. Wuerthele. AppleInsider (February 9 2017)

[4] Seko et al. Phys. Rev. Lett. 115, 2015, 205901
 [5] Umn et al. Mater. Discovery 4, 2016, 18
 [6] Ju et al. Phys. Rev. X. 7, 2017, 021024
 [7] http://www.senryaku.jst.go.jp/imago/c\_material\_170424.pdf



The flow of the proposal should be clear at a glance. To ensure this, use one figure per page.

The first figure should summarise the project (background, method, main goal).

Figures should be clear when printed in black-and-white.

If figures are not normal in your field, make sure the flow is clear from headings and text formatting.

#### 有機 薄膜 蒸着 システム システム 高い結晶性の 有機薄膜+ LEEDパータン 構造解明手法(副目標1) 有機薄膜の電子回 析図形による有機 薄膜の結晶構造の 分子レベル解明

図2(本研究の副目標 1)システムで得られた有機薄膜を分子レベルで結晶構造の解明を目指す。ここでは、LEEDパータンが入力される構造解明手法を築く。

#### ★副目標1 薄膜結晶構造を解明すること システムで何を作った? ★

副目標1では、高く評価された研究成果 GAMMA アポローチ (Packwood et al. Nature Communications. 8, 2017, 14463) の一般化を行い、システムに測定される電子回析図形 (=LEED パータン) に入力される構造解明手法を創生する (図2)。この手法では、システムはどんな有機薄膜を作るかを分子レベルで解明し、かつ、分子構造と薄膜結晶構造を繋げるコンセプトを抽出することも可能である。

★副目標2 長期寿命 OLED の作り方の解明 システムによる日本業界への還元★ 薄膜の結晶性は OLED の寿命と強い関係があると考えられる [1]。副目標 2 では、 システムを活用し、実際の OLED に入っている有機薄膜を優れた結晶性で得るための蒸着パラメーターを模索することにより日本業界への還元を狙う。

#### \*本研究の学術的背景・独自性\*

日本産業界は、有機 EL に投資しなければディスプレイ供給事業を長く続けられない[2]。 日本の最大ディスプレイメーカー(株式会社ジャパンディスプレイ)は、iPhone 用の無機 LCD ディスプレイの主要の供給先であり、総合利益の54%を Apple から受け取っている。しかし、OLED ディスプレイが搭載されている iPhoneX の公開で、ジャパンディスプレイの今後の見通しが暗くなった [3]。日本企業は有機 EL 分野で後ろから迫い越すには、有機 EL 開発に関わる技術的課題を解決することが戦略となる。

応用数学・情報科学が流行っている中、有機EL開発に機械学習論を導入することが大変魅力 的になってきた。本研究では、高性能・長期寿命の有機EL開発において大きな課題「結晶性 の高い有機薄膜を得るための蒸着バラメーターの特定」を機械学習で解決し、従来の課題対 策「直感的経験による試行錯誤」を乗り越えることを狙う。申請者が分かっている範囲では 機械学習をデバイス開発に導入しようとする研究グループはどこにもいないので、本研究の インパクト・独自性を保証できる。

#### \*本研究で何をどこまでにするか·研究の進み方\*

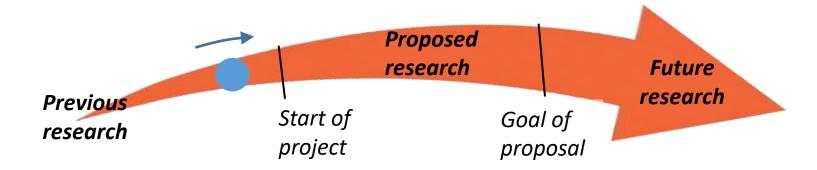
主な目標 (H30年4月-H31年3月). 研究期内で、半導体表面や金属の単純結晶表面という基板に吸着した低有機分子薄膜 (ベンタセンなど) のためのシステムを構築する。

# Tip # 4: Write in short paragraphs

- Make one point per paragraph.
- Key words in bold. Proposal should be understandable by reading bold parts only. But do not use too much bold text.
- Have one line of space between paragraphs. This makes the proposal look easier to read.
- Avoid tiny font sizes. If you run out of space, you need write more succinctly.

Tip # 5:

# Convey a sense of momentum through your writing



- The proposed project should feel like part of a longer, personal trajectory.
- Describe how your previous research brought you to the proposed project, and how your proposed project will bring you to your future research.
- This is also shows that you are thinking about your long-term career.

Early-Career Scientists 4

2. Research Development Leading to Conception of the Present Research Proposal, etc. In this column, descriptions should be given within 1 page, of (1) applicant's research history leading to the conception of this research proposal and its preparation status, and (2) domestic and overseas trends related to the proposed research and the positioning of this research in the relevant field.

"...applicant's research history leading to the conception of this research proposal..."

#### 様式S-8(応募内容ファイル(添付ファイル項目))

新学術(公募)-1

#### 研究概要

#### (1)研究目的等

新学術 (公募) - 2、3 (研究目的)、8 (今回の研究計画を実施するに当たっての帯鏡状況及び研究成果を社会・国民に発 イス・7 (これまでに受けた研究費)との成果時)、8 (前回の公募研究の成果等) の内容を管備にまとめて記述する こと。(1/2 百得度、「研究計画・方差」と合わせて1 百以内)

#### 金属錯体の非対称性に基づく二次元磁性 第一原理構造予測で材料探索

長距離磁気秩序を示す二次元材料はスピントロニクスのために非常に期待されている。本研究では、非対称金属錯体の自己組織化で形成した単一層を対象とし、第一原理から単一層の構造を予測できる手法(=first-principles structure prediction および FPSP コード)の開発を目指す(図 1A)。また、コードによるパーチャルスクリーニングを行い、長距離磁気秩序を示す単一層を形成できる金属錯体を探索する(図 1B)。

この探索を行うために、不対電子間の相互作用(強磁性相互作用、反 強磁性相互作用)が電子間距離に依存することを活かす。具体的に、 金属結体の非対称性による単一層中の不対電子間距離に変異を導入 、新たなスピン配置を引き起こす。そして、非対称性を維持しながら金 属鏡体間相互作用を最適化して、長距離の強磁性・反強磁性を同時に 示す単一層を形成できる金属錯体を絞り込む。

本研究では、前に作られたコード[Nature Communications 2017, 2018]を さらに発達し、不対電子・非対称性を有する金属錯体を取り扱うことで従 来の第一原理構造予測と全く違う方向性へ進む。さらに、領域内の実験 係共同研究者を見つけ、「配位アシンメトリー領域」へ積極的に貢献しな がら材料料学実験へのフィードパックを狙う。

課題:長距離磁気秩序を示す 金属錯体単一層の探索

解決:金属錯体単一層の構造 を第一原理から予測できるコ ードを開発し、適当な単一層を パーチャルに探索すること

非対称性の出番:金属錯体の 非対称性が単一層中の長距 離磁気秩序を引き起こすこと

領域への貢献:配位アシンメト リーに基づく機能を発揮する材 料を理論的に研究すること

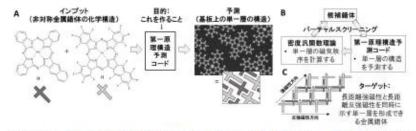


図1. 本研究の目的・計画 (A)H31年度は、李对称金属館体の自己組織化で形成する単一層を対象とし、単一層の原子構造を予測できるコード(以下、FPSP コード)の開発を目指す。(B)H31 年度は、コードと密度汎関数理論によってバーテャルスクリーニングを行い、長距離温気秩序を示す単一層を形成できる金属網体の探索を目指す。(C)金属館体の非対称性が引き起こす長距離温気秩序の例。

#### (2)研究計画・方法

新学術(公募)-4、5 (研究計画・方法)の内容を養潔にまとめて記述すること。(1/2 頁程度、「研究目的等」と合わせて1頁(14)

平成31 年度(図1A):FPS コードを作成するには、金属錯体単一層のエネルギーを計算するための方法、 単一層の平衡構造を計算できるモンテカルロ法が望ましい。パラメーターや単一層の候補構造がかなり多い ので、円滑に進むために申請者の機械学習専門知識を活用する。具体的には、金属錯体の配置の例とも エネルギーが記入されたデータベースを形成し、データベース中の相関をパラメターフリー機械学習(=カー ネル型機械学習)で抽出する。この相関を活かすと単一層のエネルギーを迅速に計算するかつ、単一層の 候補構造の数を劇的に減らすことが可能になる。以上により、単一層のエネルギーを計算するための方法と 物での良いモンテカルロ法へ同時に到達する。データベースを密度汎関数理論で形成するので、単一層の 構造を第一原理計算とほぼ同じ精度で予測できると考えられる。

平成 32 年度(図 1B,C): バーチャルスクリーニングを行うために、Fe や Mn を有する非対称ポルフィリン誘導体を接補結体とする。そして、様々な接補結体について FPSP コードで単一層の構造を予測し、単一層の磁気秩序を密度汎関数理論で計算する。ここではポルフィリン誘導体の化学構造と単一層の磁気秩序の相関を観察しながら、長距離磁気秩序を示す単一層を形成させる候補金属結体を絞り込むように進める。

# Tip # 6: Only if possible – First page in Japanese

- A good translation will improve the chances of success. However, if nuances are lost then the chances will decrease.
- If a trusted colleague is available, do this with them and ask about the phrases they choose (helps if you can read Japanese).
- Google Translator is not recommended.

## Tip # 7: Demonstrate insider Japan knowledge

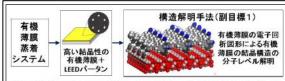


図2(本研究の副目標1)システムで得られた有機薄膜を分子レベルで結晶構造の解明を目指す。ここ では、LEEDパータンが入力される構造解明手法を築く。

#### \*副目標1 薄膜結晶構造を解明すること システムで何を作った?\*

副目標1では、高く評価された研究成果 GAMMA アポローチ (Packwood et al. Nature Communications. 8, 2017, 14463) の一般化を行い、システムに測定される電子回桁図形 (二LEED パータン) に入力される構造解明手法を創生する (図2) 。この手法では、システムはどんな有機薄膜を作るかを分子レバで解明し、かつ、分子構造と薄膜結晶構造を繋げるコンセプトを抽出することも可能である。

★副目標2 長期寿命 OLED の作り方の解明 システムによる日本業界への選元★ 薄膜の結晶性は OLED の寿命と強い関係があると考えられる [1]。副目標 2 では、 システムを活用し、実際の OLED に入っている有機薄膜を優れた結晶性で得るための蒸着パラメーターを模索することにより日本業界への還元を狙う。

#### \*太研究の学術的背景・独自性\*

日本産業界は、有機 日、に投資しなければディスプレイ供給事業を長く続けられない[2]。

日本の最大ディスプレイメーカー (株式会社ジャパンディスプレイ) は、iPhone 用の無機 LCD ディスプレイの主要の供給先であり、総合利益の54%を Apple から受け取っている。 し かし、OLED ディスプレイが搭載されている iPhoneX の公開で、ジャパンディスプレイの今 後の見通しが暗くなった [3]。日本企業は有機 EL 分野で後ろから迫い越すには、有機 EL 開発に関わる技術的課題を解決することが戦略となる。

応用数学・情報科学が流行っている中、有機L開発に機械学習論を導入することが大変魅力 的になってきた。本研究では、高性能・長期寿命の有機L開発において大きな課題「結晶性 の高い有機薄膜を得るための萬着パラメーターの特定」を機械学習で解決し、従来の課題対 策「直感的経験による試行錯誤」を乗り越えることを狙う。申請者が分かっている範囲では、 機体学習をデバイス開発に導入しようとする研究グループはどこにもいないので、本研究の インパクト・独自性を保証できる。

#### \*本研究で何をどこまでにするか・研究の進み方\*

主な目標 (H30年4月-H31年3月). 研究期内で、半導体表面や金属の単純結晶表面という基板に吸着した低有機分子準膜 (ベンタセンなど) のためのシステムを構築する。

Japan's largest display maker (Japan Display) is the main producer of LCD displays for the iPhone, and receives 54 % of its total profit from Apple. However, with the announcement of the iPhoneX, which uses an OLED display, the future of Japan Display has become bleak.

Upon examining this year's Strategic Goals from MEXT (New Material Development Method by Combination of Experiment and Data Science), I formulated this project.

This may make you feel familiar to the evaluators (even if they do not know who you are).

#### 2 本研究の着想に至った経緯など

本機には、(1)本研究の着想に至った経緯。(2)関連する国内外の研究動向と本研究の位置づけ、(3)準備状況と実行可能 について1両以内で影響してください。

#### 1. 本研究の養摂に至った経緯

本研究の着想は、申請者のJSTさきがけ研究(数理モデルでグラフェン合成の制御、H26.10-H30.3)の次の挑戦として考えられた。有機分子sub-monolayerの分子レベル構造の予測を目 指したさきがけ研究では、国内外の招待免表、招待記事などで高く評価され、JST CREST細 野領域「実験と理論・計算・データ科学を融合した材料開発の革新」の「本領域が求める研 穷」の具体的例となった [7]。本研究の切っ掛けは、さきがけ研究の期内に参加したプログ ラムJST SciFOSである。そのとまに表勝口の専用やに関する困難についての経験が高まり

機械学習を薄膜蒸着過程に導入しよういう発想があった。そして、今年度の戦略目標「実験 とデータ科学等の融合による革新的材料開発手法の構築」を検討したうえ、本研究の主な目 標「有機薄膜蒸着システム」と副目標1、2を図った。

#### 2. 関する国内外の研究動向と本研究の位置付け

産業的ニーズにも関わらず、高い結晶性を得るための自動システムはまだ発表されていない とみられる。日本業界では、機械学習をデバイス開発過程に導入しようという動きがあるが 具体的成果はまだ発表されていない。日本国内外では、材料科学と機械学習の共同研究がホ ットトッピクになったが、今までの研究はパーチャルスクリーニング (=第一原理計算によ る材料発見)に限定される。以上により、本研究は実際のデバイス開発過程と機械学習の初 めての成果になる見遠がある。

#### 3. 準備状況と実行可能性

本研究のための研究スペース(京都大学 にある実験室、25㎡)、ハイパフォーマ ンス計算機(144コアのIntelクラスタ ー)、超真空薄膜素着装置(Omicrot 製)はすでにある(図5)。しかし、浅 膜素着機器に設置されている素着源が展 点の高い無機の材料のためのもので、有 板力を分解してしまう傾角がある。新 しい素着源、消耗品等(類角的ある。新 のために本申請を提出する。



JST SciFQS期内でDMP大日本印刷株式会社や株式会社日本触媒などの知り合いができ、研究 成果を日本業界へフェードバックするためのメカニズムがある。

#### 参考リスト

Fukugawa et al. Appl. Phys. Express. 7, 2014, 082104

[2] T. Amano, Bloomberg Technology (October 17 2016)

[3] M. Wuerthele. AppleInsider (February 9 2017)

ko et al. Phys. Rev. Lett. 115, 2015, 205901

161 Ju et al. Phys. Rev. X. 7, 2017, 021024

[7] http://www.senryaku.ist.go.in/image/c\_material\_170424.pd

## Tip # 8: Think carefully about which 'research field' you choose

		Basic Section
	28010	Nanometer-scale chemistry-related
	28020	Nanostructural physics-related
	28030	Nanomaterials-related
	28040	Nanobioscience-related
	28050	Nano/micro-systems-related
Med	lium-sized	Section 29: Applied condensed matter physics and related fields
ı		Basic Section
ı	29010	Applied physical properties-related
	29020	Thin film/surface and interfacial physical properties-related
	29030	Applied condensed matter physics-related
Med	lium cizad	Section 30: Applied physics and engineering and related fields
1	Hum-sizeu	11 17 8 8
	ituiii-sized	Basic Section
	30010	,
		Basic Section
	30010 30020	Basic Section Crystal engineering-related
	30010 30020 dium-sized	Basic Section  Crystal engineering-related  Optical engineering and photon science-related
	30010 30020 dium-sized	Basic Section  Crystal engineering-related  Optical engineering and photon science-related  Section 31: Nuclear engineering, earth resources engineering,
	30010 30020 dium-sized	Basic Section  Crystal engineering-related  Optical engineering and photon science-related  Section 31: Nuclear engineering, earth resources engineering, agineering, and related fields

When you submit your proposal, you must select a research field.

Your proposal will be evaluated by senior researchers from that field.

Look through the entire list and choose appropriately!

### **List of fields:**

http://www.mext.go.jp/component/a\_menu/science/detail/\_\_icsFiles/afieldfile/2018/10/1 6/1397892 01 1.pdf

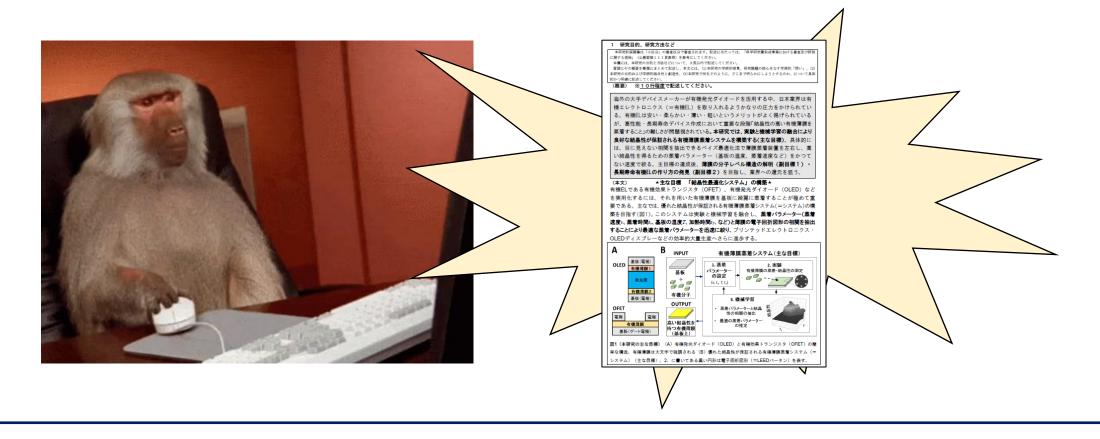
# Tip # 9: Last but not least, familiarize yourself with E-rad!



https://www-shinsei.jsps.go.jp/kaken/index.html

- E-rad is the website where you submit your proposal.
- Access requires an ID and password. Kyoto University provides this. Ask your secretary to obtain the ID and password from the administration.
- As well as uploading your proposal, you must enter additional information (amount of money required, etc). Check the submission page well ahead of the deadline.

## **Final comments**



- These tips are only based on my experience and do not guarantee success. You should take time to find what works for you.
- You should put a good effort into writing Kakenhi. It brings important career benefits and is a great chance to clarify your research direction.